

第一章 予兆

第一節 ブッシュの時代

レーガン大統領が二期八年の任期を終え、ジョージ・ブッシュ・シニアが 1989 年から 1993 年の間第四十一大統領に就任した。就任演説で彼は「米国の強さを良いことに向ける」と述べた。ブッシュ・シニアは 1976 年に C I A 長官に就任し、つぎにはレーガン大統領の元で副大統領に就任、そしてついに大統領に昇りつめたのである。C I A 長官時代から大統領時代までブッシュ・シニアが権力の中枢に居た期間は十三年に及んだ。

ブッシュ・シニアの父親のプレスコット・ブッシュはコネチカット州の上院議員であったが、そのためかジョージ・ブッシュ・シニアも早くから政治に関心を持ちテキサス州の下院議員を二期務めた。さらに上院議員に二度立候補したが失敗し、国連大使、共和党国務委員会議長、中国連絡事務所長を歴任、さらに 1976 年から 1980 年まで C I A 長官を務めた。

1980 年に共和党大統領候補に立候補したが、ロナルド・レーガンが大統領に選出され、その副大統領に指名された。ブッシュ・シニアは副大統領として規制緩和、麻薬対策、などを担当し多くの国を訪問した。

ブッシュ一族の政治基盤はテキサス州である。テキサスは元々石油で栄えた州であり、原油産出量が減ってからは、サウジアラビア、あるいはメキシコ、ベネズエラ等からの輸入原油を精製し始めた。こうしてブッシュ一族の関係は石油会社とのみならずサウジアラビアとも深まり、サウジアラビアはブッシュ一族の強力な支援者となった。

ブッシュ・シニアが副大統領であった時期に、アフガニスタンのアヘン生産量は 1982 年の 250 トンから、1991 年の二千トンへと飛躍的に増加した。C I A がムジャヒディンへの支援を強化し始めた時期と重なり、米国とパキスタンの情報機関はアフガン反体制派が麻薬の密輸に関与するのを黙認したのである。その良い事例としてグルブディン・ヘクマチャルがいる。彼は反体制派のリーダーで C I A からひそかに渡される武器の大半を受け取っていたが、主要な麻薬密輸業者としても知られていた。

1980 年代、アフガニスタンでは後にブッシュ・ジュニアの敵となるオサマ・ビン・ラディンが活動していた。アフガニスタンに駐留するソ連軍に対抗するために米国がサウジアラビアに協力を求め、サウジアラビア政府の支援を得たオサマ・ビン・ラディンは多くの若いイスラム教徒とともにアフガニスタンへ行き聖戦を戦っていた。

1984年にオサマ・ビン・ラディンはアフガニスタンと国境を接するパキスタンのペシャワルに移り、マクタブ・アルキダマル(MAK)と呼ばれるムジャヒディン(聖戦士)軍団を動かし、資金、武器、兵士を世界中から集めた。MAKは、パキスタンの諜報機関ISIによって育てられた。ISIはソ連のアフガニスタン占領軍に対抗して、CIAがゲリラ戦争を仕掛けるための隠れ蓑であった。ビン・ラディンは軍閥であるグルブディン・ヘクマチャルと密接に結び、ヘクマチャルのアヘン密輸を強化した。そこから得た資金はムジャヒディン強化のために使われた。

レーガン大統領は、1985年にアフガニスタンの戦いを拡大することを決めた。CIA、英国MI6、及びISIはムジャヒディンのゲリラ攻撃をソ連支配下のタジキスタン、及びウズベキスタンにまで広げることにも同意した。そして、ソ連支配区域の軍事施設や工場、倉庫などを戦争が終わるまで攻撃し続けた。CIAはパキスタンのISIが世界中から過激なモスレムを募集しアフガンのムジャヒディンと共に戦うことを支援した。CIAは破壊活動マニュアルとコーランをISIに供給し、ISIはそれをソ連に持ち込んだ。ついには四十三のイスラム諸国から三万五千人のイスラム過激派が集まりアフガンのムジャヒディンと共に戦った。ⁱ

これらのムジャヒディンはアフガニスタンの戦争終了後、それぞれの出身国へ帰り、数多くのテロ行為を働くことになる。皮肉なことにムジャヒディンのために建設した施設が後に米軍を悩ませることになる。1例を挙げればCIA、ISI、そしてビン・ラディンはムジャヒディンのために、アフガニスタンに洞窟施設を建設した。これらは後にタリバンが米国と戦うときに使われ、手を焼いた米国が大規模な爆撃を加えた場所である。

1980年代後半にパキスタン大統領ベンザイル・ブットーはムジャヒディンのネットワークがあまりにも強くなりすぎたと感じて、ブッシュ副大統領にこう警告した。「貴方はフランケンシュタインを作っている。」と。しかし、警告は無視された。1993年にパキスタン大統領は、エジプト大統領ハスニ・ムバラクに対し「ペシャワルは事実上ムジャヒディンの支配下にあり、彼らはパキスタンの主権を認める代わりに軍事的援助を再々求めている。」と語った。

こうした米国及び英国の諜報機関とムジャヒディンとの親密な関係は、法律を無視した動きにまで発展する。1987年9月から1989年3月までサウジアラビアのジェッタ総領事を勤めたマイケル・スプリングマンは後にこう述べている。「何度と無く不適格者に対し(米国への)ビザを発行するよう言われた。」彼はその要求を断ったが、上司がそれを押さえつけた。スプリングマンは政府に対し抗議すると、まったく無視され、ついには罷免された。彼が不適格者リストを納めていたファイルは破壊された。スプリングマンはイスラム過激派に対するビザ発行は2001年9月11日まで続けられたのではないかと推測している。

ジョージ・ブッシュ・シニアの下で国防長官であったディック・チェイニーは「1990年代の国防戦略」と呼ばれる文書を任期の終わりに出した。この中で彼は米国の世界制覇を強調している。この計画はクリントンが大統領に就任したために実現せず、つぎのジョージ・ブッシュ・ジュニアの大統領就任まで待つことになる。だが、この待ち時間は無駄ではなかった。その間に彼

らは新保守派（ネオコン）が作ったシンクタンク「新しい米国のためのプロジェクト」を通じて、世界制覇のビジョンをさらに練り上げたのである。

ブッシュの時代は、民主党のクリントン氏が大統領に就任した 1993 年から 2000 年までの間中断されたが、2001 年にブッシュ・ジュニアが大統領に就任し再び始まった。親子二代にわたるブッシュ一族の影響はこうして 1976 年以来三十年以上にわたり、陰に陽に米国の政策に影響を及ぼし続けている。米国の歴史の中で、一族の支配が斯くも長く続いたことは未だ嘗てなかった。

第二節 ビン・ラディンとブッシュ一族

ジョージ・ブッシュ・ジュニアは 1988 年までは失敗続きの石油屋であった。1977 年 6 月に彼はアルプスト・エナジーという石油掘削会社をテキサス州ミッドランドに設立した。サレム・ビン・ラディン（オサマの兄）はジョージ・ブッシュ・ジュニアの最初の事業に多額の投資をした。ブッシュ・ジュニアは父親がレーガン大統領の下で副大統領となった時、アルプスト・エナジーの社名をブッシュ・エクスプロレーションと変えた。だが、この会社は 1984 年に破産の危機に陥り、スペクトラム・エナジーに合併されてしまう。アルプスト社の五〇人の投資家は（ブッシュの言葉によれば主に彼の伯父の友人である）投資額の 470 万ドルの殆どを失った。彼らは利益配分として 155 万ドルを受け取り、390 万ドルの免税を受けただけであった。このように実績が悪かったにもかかわらず、投資家はジョージ・ブッシュ・ジュニアを社長に据え 13.6%の親会社株を与えた。会社の悪い状況は続き、1986 年にスペクトラム社はハーケン・エナジーに合併された。

1990 年にハーケン・エナジーは海外での掘削経験も、海上掘削の経験も無いのに、バーレーン政府からオフショアの石油掘削契約を取った。この取引が公開されたとき石油業界は小さな会社がオフショアのガスと石油の掘削に選ばれたことに疑念を呈したが、バーレーン政府はブッシュ大統領の息子がハーケン社に関係していたことは知らなかったと弁明した。結局このプロジェクトは二つの空穴を掘り、ハーケン社がプロジェクトを放棄することで終わった。イラクがクウェートへ侵攻する二ヶ月前の 1990 年 6 月 20 日にジョージ・ブッシュ・ジュニアは彼の持つハーケン社の株の三分の二である二十一万二千百四十株を四ドルで売り 848,560 ドルを手にした。ハーケン社は八日後に第二四半期を 2,300 万ドルの赤字決算とすることを発表した。そして、株価格は急速に下落し、その年の終わりには一ドルをやや上回る値となった。

ブッシュの会社には二人の主要な投資家、サレム・ビン・ラディン（オサマ・ビン・ラディンの長兄）とカレド・ビン・マフズがいた。マフズとオサマは義理の兄弟で、カレドの妹はオサマ・ビン・ラディンと結婚している。カレド・ビン・マフズは B C C I 銀行の 20%株主であったが、B C C I はその後数年して倒産し、銀行の歴史上最大の倒産スキャンダルとなった。その後カレド・ビン・マフズはビン・ラディンがテロ活動に走った後、1999 年オサマに近い組織に資金供給をしたかどで、自宅監禁となった。

2002年に、九月十一日事件関連のサウジ訴訟を担当した主任弁護士ロン・モントレイは、法廷において「ジョージ・ブッシュ・ジュニアはカレド・ビン・マフズとの関係について証言させられるだろう。」と発言した。

ブッシュ一族とビン・ラディン一族の付き合いは1997年にジョージ・ブッシュ・ジュニアの会社にサレムが投資したのがきっかけだったが、この投資のパイプ役を務めたのがジェームズ・バスである。彼はジョージ・ブッシュ・ジュニアがテキサス州航空隊にいるときに知り合った。バスはたいした資金も持たないうちに、ジョージ・ブッシュ・ジュニアが石油ビジネスを始める資金として五万ドルを提供した。1976年にジョージ・ブッシュ・シニアがCIA長官になったばかりの時にサレム・ビン・ラディンはバスをテキサスにおける自分の事業の代表者に任命した。後にバスは不動産業のパートナーであったビル・ホワイトに、自分はCIAにいたがジョージ・ブッシュ・シニアに選ばれ、対アラブのビジネス、特に航空関係のビジネスをやって欲しいと頼まれた、と語った。実際一九七八年に彼はヒューストン・ガルフ空港をビン・ラディンのために買った。

ビン・ラディンとブッシュの緊密なつながりは、サレム・ビン・ラディンの突然の死によって終わる。1988年5月29日の朝、サレムの乗ったウルトラ軽飛行機が離陸直後サン・アントニオの近くの送電線に触れ、およそ五〇メートルの高度から地面に激突したのである。離陸した空港の持ち主であるアール・メイフィールドは「サレムは熟練したパイロットだった。何故彼が右旋回でなく送電線の方へ左旋回したのか理解が出来ない。」と述べた。この事故について様々な陰謀説が流布されたが、確実な証拠は何も無い。

第三節 イスラムの反逆

1988年8月にビン・ラディンはムハンマド・アテフと共にアルカエダを組織した。その目的は世界の非イスラム政府に対し暴力で立ち向かうことであった。アルカエダの組織は統制管理型で、主要な仕事やテロについて議論し承認を与える顧問評議会があり、アテフとビン・ラディンはその評議会メンバーとなった。アルカエダは他のテロリスト組織と協力関係を結んだ。シェイク・アブドゥル・ラーマンに率いられたイスラムグループであるエジプトのジハードや、その他の国のジハード・グループなどがアルカエダの傘下に入った。スーダンのナショナル・イスラミック・フロントやイランの政府代表者、その下のヒズボラとも手を結んだ。彼らの共通の敵は西欧諸国であった。ビン・ラディンとその協力者はアフガニスタン、パキスタン、ソマリヤ、ケニアに訓練キャンプを設けた。また、資金や武器の支援を様々なテロリスト・グループに対し行なった。

1989年にベルリンの壁が崩壊し、ソ連がスーパーパワーとしての地位を失うと、中央アジアには多くの新しい国が誕生した。この変化は、米国政府と米国企業の姿勢に大きな変化をもたらした。エクソンモービル、テキサコ、ユノカル、BPアモコ、シェルそしてエンロンなどの石油メジャーは直接数十億ドルを中央アジア諸国に投資し始め、この地区の巨大な石油資源の利権を確保しはじめた。例えばメジャーはカザフスタンに350億ドルの投資を約束したが、これらの

油田には6兆ドルの価値があると推定されている。しかし、石油を運び出すためにはロシアのパイプラインを使うために、巨額の使用料を支払わなければならない。アフガニスタンはロシアのパイプラインを使わずに、石油を直接インド洋へ積み出すための最適ルートであった。

1990年8月イラクは突然クウェートに侵攻した。サウジアラビアに帰国していたオサマ・ビン・ラディンはサウジ政府に対し、もしイラクがサウジを攻撃した場合には彼の配下にある数千のムジャヒディンを祖国防衛に使うよう提案した。しかし、サウジ政府はこの提案を拒否し、その代わりに30万人の米国軍隊がサウジアラビアに駐屯することを許したのである。

イラクのクウェート侵攻で始まった湾岸戦争は、終結までに予想以上の時間が掛かったが、1991年3月に終結した。イラク戦争終了後も米国はサウジアラビアの一万五千ないし二万人の兵士を引き上げずに駐屯させた。米国はその存在を1995年まで公式には認めず、しかもその駐屯理由は公式に説明されることも無かった。ネーション誌はその理由をクーデター阻止のためであったと推測している。サウジアラビアには最新のハイテク武器が蓄積されていたが、サウジ軍はそれを使うだけの十分な技量が無く、一方では地方の部隊は忠誠心を欠いていたからである。

オサマ・ビン・ラディンはサウジアラビアへの米軍駐留に強く反対したために、1991年4月自宅監禁になった。オサマはアフガニスタンの英雄であり、そう簡単に投獄することも殺害することも出来ないため、サウジ政府は彼が財産を持って支援者と共に国外へ出ることを許した。サウジアラビア政府は公式には彼を国外追放としたが、ひそかにサウジアラビアに敵対しないという条件で財政的支援を続けていたといわれている。

サウジアラビアを追われたオサマ・ビン・ラディンは最初アフガニスタンへ戻ったが、数ヶ月してスーダンへ行き、かつてのムジャヒディンを数百人集めた。

一九九一年オサマ・ビン・ラディンはアルカエダの司令部をスーダンのカルトゥームに設けた。そして、二つの投資会社、農業会社、建設会社、および運送会社を始めた。これらの会社は資金を稼ぐと同時に、爆発物の補給、武器、化学品、あるいはアルカエダのメンバーを運ぶといった目的で作られたのである。

アルカエダの一部は結成直後から直ちに米国に潜伏した(当初から潜伏をしようとしていたのか、あるいは単に新天地を求めて移住したのか、は定かではないが結果としては潜伏したことになる)。以下はその一例である。

1989年5月ナビル・アル・マラブはボストンに移り、アルカエダの潜伏エージェントとしておよそ十年間タクシー運転手となって暮らした。マラブは1992年にアフガニスタンのアルカエダ基地でラエド・ヒジャズと共に武器使用訓練を受けた。彼はヒジャズと共にボストンの同じタクシー会社で働いていたが、彼らの共通の友人で同じタクシー会社に働く男は、1999年にアルカエダのテロ攻撃に参加し死んだ。

ヒジャズはヨルダンでの爆破計画を支援し、ホテル爆破に参加して失敗した。1999年5月にFBIはヒジャズを捜索してアル・マラブに近づき、ヒジャズについて色々聞き出そうと

したが、彼は嘘をつきヒジャズを知らないといった。ヒジャズは 2000 年 10 月にシリアで逮捕され、爆破計画の罪によりヨルダンで投獄された。獄内でヒジャズは検察に協力し始め、アル・マラブは米国内のアルカエダ活動家であることを証言した。

奇怪なことだが、C I A や F B I はテロリストのメンバーを敵ではなく身内として見ていた節がある。1990 年 6 月に過激派モスレムの指導者シェイク・アブドゥル・ラーマンはテロリストの監視リストに載っていないながら、C I A の秘密諜報員から旅行者ビザを貰い米国に入国した。アブドゥル・ラーマンは C I A と I S I の行なったアフガニスタンのソ連軍追い出しに深く関わっていた。そして五年の間、世界中を回ってムジャヒディンを募集していたことで知られている。彼は米国とエジプトの政府を転覆しようという目的を決して隠さなかった。彼はエジプト大統領アンワル・エル・サダト暗殺に果たした役割のため悪名が高かった。

米国へ入国と同時にアブドゥル・ラーマンは米国内のテロリストネットワークを作り始めた。彼はアフガニスタンでビン・ラディンと知り合い、ビン・ラディンはひそかにアブドゥル・ラーマンの米国での生活費を支払っていた。あるエジプトの高官は「アブドゥル・ラーマンが米国に移った後も C I A のためにムジャヒディンの募集を続けている。」といった。この高官は「我々はアメリカに彼を甘やかさないでくれと頼んだ。」と述べている。

エジプトの諜報機関は米国に対し、アブドゥル・ラーマンが新たなテロ攻撃を計画していると警告した。そして 1992 年 11 月 12 日、彼に関係するテロリストがエジプト旅行中の西欧人一行を機関銃で襲った。しかし、その後もかれは自由にニューヨークに住み、1993 年にワールド・トレード・センター爆破の支援容疑で逮捕されるまで自由に振舞った。

1993 年にカナダの警察はアルカエダの上級メンバーであるアリ・モハメドを逮捕した。しかし、F B I が彼は米国の捜査官であると言ったために釈放した。モハメドはかつて米陸軍の軍曹であり、数年に渡ってアルカエダのための活動を続けていた。彼はビン・ラディンの護衛役を訓練したし、ケニアのテロリスト基地でテロリストを訓練した。このテロリストは後にケニアの米国大使館を爆破する。モハメドは 1993 年から 1997 年のあいだ、米国とアフガニスタンの間を行き来していた。元エジプト諜報機関にいた人物は「C I A が彼を単なる旅行者とみなしたことはありえない。」と語っている。

このようにアルカエダのメンバーは 1990 年代の中頃までは、C I A や F B I からは保護すべき対象と見られていた可能性がある。しかし、その後テロ行為が激しくなり、このような状況は消し飛んでしまった。

第四節 テロの激化

オサマ・ビン・ラディンの最初のテロ攻撃は 1992 年末に行なわれ、イエーメンで二人の米国人を殺害した。F B I は 1993 年になってオサマ・ビン・ラディンがこの攻撃に加わっていたこ

とを知った。さらにF B Iは彼がエジプトの過激派に資金提供をし、また北部スーダンで三人のテロリストの訓練を行なうために資金援助をした事実を1994年1月までに発見した。

この後、オサマ・ビン・ラディンは次々とテロ行為を展開する。

- 1993年10月ソマリアのモガディシュで国連の干渉に反対する部族に対し、アルカエダが軍事訓練を行い、その勢力が米軍を襲って一八人を殺した。さらに死体を市中で引き回し、その無残な姿がテレビ放映された結果、米国世論は米軍の撤退に傾き、米政府もやむを得ず軍の撤退を決断した。
- 1993年にオサマ・ビン・ラディンはアリゾナの米軍からジェット機を買った。この航空機は後にミサイルをパキスタンからソマリアへ運ぶのに使われ、そのミサイルで二人の米国特殊部隊兵士が殺害された。
- オサマ・ビン・ラディンは部下を米国内の飛行学校に入れ操縦の訓練を開始した。しかし、この訓練は「ボジンカ作戦」(後述)が露見したため役に立たなかった。
- 1993年2月26日ワールド・トレード・センターを爆破しようとする試みが失敗し、不首尾に終わった爆発で六人が死亡した。分析官は、テロリストが爆弾を仕掛ける場所を間違えなかったなら、二つのタワーは倒壊し五万人に上る死者が出たであろうと推測している。この爆破はオサマ・ビン・ラディンと極めて近いラムジ・ユセフによって計画された。ニューヨーク・タイムズが後から報道した記事によれば、秘密捜査官エマド・サレムは次のように証言した。「F B Iは攻撃を事前に察知していて、事前に偽の爆薬と入れ替え、計画を妨害すると言っていた。しかし、この計画は中止され、結局爆破を阻止することが出来なかった。」爆破犯の何人かはC I Aがアフガニスタンの戦争のために訓練した人物であった。ⁱⁱ
- 1993年6月、サイード・シェイクはロンドン経済大学を落第し故国のパキスタンへ帰った。二ヵ月後彼はアルカエダとパキスタン軍が運営するアフガニスタンの基地で訓練を受け、テロリストとなった。1994年の中ごろまでに、彼はテロリストの教官となり、六月にはインドを旅行中の西欧人二人を誘拐した。1994年10月に、彼は三人の英国人と一人の米国人を誘拐した後逮捕され、最も警戒の厳重な牢獄に入れられた。I S Iは彼の弁護をするために弁護士を雇った。アルカエダとI S Iは彼を牢獄から救い出し、彼は後に九月十一日事件の資金援助の中心人物となった。
- 1993年6月には八人が爆破計画容疑で逮捕された。目標物の中には国連ビル、フェデラル・プラザ、リンカーン・トンネルおよびホランド・トンネルが含まれていた。これらの計画者はラムジ・ユセフおよびシェイク・オマール・アブドゥル・ラーマンとつながりがあった。もしこの計画がこの年の後半に計画されていて成功したなら、数千人が死んだと思われる。

- 1995年1月6日にフィリピンの捜査官は一週間後にフィリピンを訪問する予定であった法王をアルカエダが暗殺しようとする企みを発見した。そして、その捜査中にラムジ・ユセフ（世界貿易センターの爆破犯）とカリド・シャイク・モハメド（9/11 犯人）によって計画された「ボジンカ計画」をも発見した。この計画は十一機から十二機の旅客機を同時に太平洋上で爆破しようとするものであった。もし、これが成功すればロス・アンジェルス、サンフランシスコ、ホノルル、ニューヨークへ向かう四千人の乗客が死んだだろう。ボジンカ計画は二週間後の1995年1月21日に決行される予定であった。その計画の第二段階では航空機をハイジャックし、世界貿易センター、ホワイトハウス、国防省、トランスアメリカン・タワー、シアーズ・タワーなどに突っ込むことが計画されていた。

アブドウル・ハキム・ムラドは米国の飛行学校で操縦を習得した。彼の役割はボジンカ計画の中でCIAの建物に突っ込むことだった。1995年の尋問報告には「ムラドは航空機をハイジャックし、操縦室を占拠してCIAの建物に突っ込もうとしていた。爆弾も爆薬も要らない自爆攻撃を彼は熱望していた。」と記述されている。フィリピン当局者は9/11事件を知って「これはボジンカだ。」と言った。また、後に「我々はボジンカ計画をすべて米国に報告した。何故彼らはもっと警戒をしなかったのだろうか。」とも述べた。

ボジンカ計画がフィリピンで暴露されたときに、1993年の世界貿易センター爆破を計画した犯人の書いた手紙がコンピュータディスクから発見された。そこには「我々の要求が満たされない限り、将来にわたって世界貿易センターは攻撃の対象であり、将来の攻撃計画はより綿密なものとなるだろう。」という警告がなされていた。この手紙はついに出不せられず仕舞いとなったが1998年の米国議会証言でその内容が明らかにされた。マニラ警察長官は「我々は1993年の世界貿易センター爆破には失敗したが、次回は必ず成功する。」というビン・ラディンの声明を同時期に発見したことを報告している。

オサマ・ビン・ラディンが何故執拗にテロを繰り返したのか。その理由は1998年にビン・ラディンが出した声明「米国は七年以上にわたってイスラムの聖地アラビア半島を占領し、その富を略奪し、専制を行い、人民を辱め、近隣諸国を脅かし、その基地をモスLEM諸国との戦いの先鋒としている。」から窺い知れる。

第五節 攻撃の準備

オサマ・ビン・ラディンとアルカエダは9/11にむけて、着々と準備を進めていた。その情報は時折外部に漏れ出た。だが、誰一人彼らの本当の狙いに気付くものはいなかった。1998年5月、ABCニュースの記者ジョン・ミラーがビン・ラディンにインタビューを行なった。彼は米国の兵員輸送機をミサイルで攻撃することを示唆した。その後報道の中でミラーは繰り返し、ビン・ラディンは「世界中でもっとも危険なテロリスト」と説明した。

1998年のある時点でF B Iが米国の飛行学校でテロリストが訓練を受ける可能性があるという警告を発した後、F B Iはオクラホマからあるテロリスト・グループが飛行訓練を受けるために学生を送り込む計画をしているという報告を受け取った。F B Iはこの名称不詳の組織に関係している人物が、米国の空港の調査とセキュリティテストを行なった事に気づき、民間航空機が標的であることを上層部へ報告した。しかしこの警告は他のF B I捜査官や航空局の間には行き渡らず、連携体制が作られることも無かった。

また、あるF B Iの操縦士はオクラホマシティの上司に対して、多数の中東人男性がオクラホマ空港で最近数ヶ月飛行訓練を受けているのを見た、というメモを送った。このメモは「大量破壊兵器」というタイトルで「計画されたテロ活動に関連している」と述べ、さらに「軽飛行機は化学薬品や生物学的薬剤を散布するのに適している」という推測を述べていた。しかし、捜査は行なわれなかったし、メモはF B Iの「大量破壊兵器」担当部門に送られたが忘れられてしまった。

米国情報局は複数の情報源から、オサマ・ビン・ラディンがワシントンやニューヨークを含む米国内での攻撃を考えていると言う情報を入手した。この情報は1998年7月に米国当局の上層部に送られた。この中でワシントンでの攻撃は、多分公共の場所で行なわれるであろうと述べていた。米国情報機関はオサマ・ビン・ラディンが米国内での攻撃に最も重点を置くであろうと予想していた。しかし、このときもそれ以上に突っ込んで対策を考えることはなかった。

1998年8月ドイツ捜査当局はハンブルグのアルカエダ組織のメンバーとみられるモニール・エル・モタサデクおよびモハメド・アタの調査を行なった。ドイツは詳細を発表していないが、この月にモタサデクが監視下に置かれたことが文書に残っている。さらに九月にはアラブ連合王国出身のアルカエダのメンバーであるマムド・マハムド・サリムがミュンヘンの近くで米国大使館爆破容疑により逮捕された。米国の捜査官は後にサリムを「ビン・ラディンの右腕」と呼んだが、F B Iはドイツ当局に対し米国がサリムやアルカエダについて知っていることを伝えようとしなかった。この年の暮れにドイツの捜査当局は、サリムがハンブルグの銀行に口座を持っていることを突き止めた。この口座の連署人はマモウ・ダルカザンリという実業家で、この男の自宅電話番号はサリムの携帯電話へ転送される仕組みになっていた。

ドイツ捜査当局はダルカザンリが、テロリストのマネーローンダリングを行なっているのではないかと疑った。かつてビン・ラディンの私設秘書であったワジ・エルハジが大使館爆破後に逮捕され、ダルカザンリが幾つか作った偽装会社の一つがダルカザンリのアパートの住所を使っていることが発見された。さらにF B Iはダルカザンリが、アルカエダの最高代表者会議のメンバーであるエルハジの委任状を持っていたことを発見した。これ等の証拠から捜査当局は連邦検察局に対しダルカザンリに対する正式な捜査を許可するよう求めた。米国の主張によれば捜査は開始した。しかし、ドイツ側は捜査の請求は拒否されたと主張している。

同じ頃、F B I捜査官のロバート・ライトとジョン・ビンセントはシカゴのテロリス

ト・グループを追っていた。しかし、上司からは単に被疑者を尾行し、報告書を上げろとのみ命令されていた。二人は1998年の大使館爆破に使われた資金はシカゴ在住のサウジの実業家ヤシン・アルカジから出たのではないかと疑っていた。上司はアルカジとテロリストの関係調査を止めさせようとし、ついに二人に対し大使館爆破事件に関連した逮捕あるいは新たな犯罪捜査を一切禁じた。2001年1月にライトは「寝ている犬は眠らせておくのが良い」と言われシカゴの一件捜査は打ち切られた。後にライトはABC放送のインタビューで「この犬たちは眠っちゃいなかった。9月11日事件は、FBIの国際テロ対策部の無能さが直接の原因だ。」と語っている。シカゴ連邦検察のマーク・フレスナーは「検察局にもFBI内部にも、担当者の力を超える力が働いて立件を阻止した。」と語った。

1998年の11月に9/11の首謀者モハメド・アタとサイド・バハジ、ラムジ・ビン・アルシブがドイツの都市ハンブルグのマリエンシュトラッセ五四番地にある四寝室のアパートに移り、2001年2月までそこに居た。この頃アタはすでに米国での生活を主としていた。

捜査官はこの転居が、ハンブルグにおけるアルカエダの支部が確立出来た印であると見ていた。このアパートでは多いときには六人が起居していた。その中にはアルカエダのメンバーであり、後にハイジャックを行なったマルワン・アルシェイや支部メンバーのザカリヤ・エッサバーなどが居た。アタが借りていた二八ヶ月の間に二九人の中東あるいは北部アフリカ出身者がアパートを自分の住所として登録していた。

ドイツ当局が実業家のマモウ・ダルカザンリとサイド・バハジのつながりを調査していたために、このアパートは相当初期からドイツ当局の正式な監視下にあった。彼らはまたバハジとアルカエダのスパイであるモハメド・ヘイダール・ザマルの関連を疑っていた。ドイツ捜査当局はこのアパートを断続的に監視していた。また、後に9/11 幫助罪で裁判に掛けられたモニール・エル・モタサデクの電話を盗聴したりしていた。

しかし、捜査当局は疑わしい活動の兆候を見つけることは出来なかった。バハジはある期間直接監視されていたが、ドイツ捜査当局はいつから監視が始まり、何時終わったかについては明かにしていない。9/11 事件の首謀者であるカリド・シェイク・モハムドも1999年には数回ハンブルグを訪れた。ハイジャック犯のワリードアルシェリも明かにそこに滞在した事がある。CIAもアタがこのアパートに居る頃監視をしたが、ドイツ当局に対して彼についてCIAが握っている情報を伝えなかった。ⁱⁱⁱ

1998年11月、米国はオサマ・ビン・ラディンとモハメド・アテフをケニアとタンザニアの大使館爆破犯人として公式に起訴した。大使館爆破事件を捜査していたFBIのテロ対策専門家ジョン・オニールはモハメド・アテフのコンピューターからメモを発見した。それによれば、オサマ・ビン・ラディンのグループはタリバンと米国の間で行なわれていた、アフガニスタンを横断する石油とガスのパイプライン交渉について詳細を知っており、強い関心を抱いていた。アテフの分析では、タリバンは真剣にパイプラインの実現を期待していたのではなく、西欧勢力をアラビア海に留めておくために交渉を長引かせている、とみていた。

米国諜報機関はモハメド・アテフがスーダンのハルトウムにあるホテルに滞在していることを突き止めた。ホワイトハウスはスーダン当局にアテフを暗殺するか、逮捕して尋問するよう求めたが彼は逃走した。

C I A長官テネットは 1998 年 12 月アルカエダに対し「戦争宣言」を行なった。テネットは次のように述べた。「我々はビン・ラディンとの闘争の新たな段階に入らなければならない。日々我々は報復が避けられないものと認めなければならない。そしてその規模は以前我々が予想していたよりもはるかに大きい可能性がある。我々は戦争状態にある。C I A内部あるいはその他の機関のいかなる資源も人材も、この戦いのために惜しむべきではない。」

しかし、米国議会の合同委員会が 9/11 事件後に調査した結果で判明したのは、この宣言が F B I 現場の人々には届かず、優先度の認識はされていなかったことである。対テロ対策費用は概ね増額し続けたのだが、大規模な予算や人員の移動は 9/11 事件が起こるまで為されなかった。例えば C I A の対テロ対策本部 (C T C) に割り当てられた人員は 9/11 まではほぼ一定の四百人で、事件後に倍の八百人となった。C T C のアルカエダ分析班は 1999 年に三人であったが、9/11 以後に五人となった。

アルカエダの活躍に業を煮やしたクリントン大統領は、1998 年 8 月 20 日に軍に命じてアフガニスタンのアルカイダ基地をミサイルで攻撃させた。だが、オサマ・ビン・ラディンはキャンプを訪れる予定を直前に変更した為に、間一髪で難を逃れた。アフガニスタンでのアルカエダ基地ミサイル攻撃の失敗はビン・ラディンのモスLEM世界に於ける評価を益々高める結果となった。国家安全保障担当補佐官サンディ・バーガーと国務長官マデレイン・オルブライトは精鋭のデルタ・フォースを派遣し、オサマ・ビン・ラディンを殺害するよう、再々大統領に進言した。クリントン大統領もこのアイデアを支持し、統合参謀本部議長のシェルトンに「もし、アルカエダのキャンプのど真ん中にヘリコプターで黒装束の忍者部隊を送り込んでやったら、やつらを脅えさせることが出来るだろう。」と言った。しかし、シェルトンはそんなことをするつもりはないし、それは素人的でハリウッド劇だと評した。彼はそんな小部隊ではなく、大部隊が必要だと主張した。中央軍司令官アンソニー・ジニー將軍は地上軍派遣反対派の中心人物であると考えられていた。クリントン大統領は「アルカエダの主導者を捕まえるための公式な計画」を立案するようスタッフに命じた。

C I A長官テネットは後にこう述べた。「1999 年中にビン・ラディンとその腹心を抑えるために、C I A はアフガニスタン及びその他の国々に捜査官のネットワークを作り上げた。地図に情報収集計画と捜査官ネットワークを書き込めば、アフガニスタンがほぼカバーされていることが分かるだろう。もし、軍がタリバンを追い落とし、アルカエダの破壊を始めれば C I A は膨大な情報網と諜報員によって、それを支援できた。」

米国政府、C I A、F B I、及び軍はそれぞれテロ対策を進めていた。また、ドイツをはじめとする各国のテロ対策も動いていた。しかし、一方ではテロリスト側も着々と準

備を進めていた。飛行訓練学校へ志願者を送り込み、さらに、武器を集めて攻撃の時期を窺っていた。

1999年春にはアルカエダがワシントンの政府機関を狙っていると言う更なる情報が寄せられた。実際1999年にはアルカエダのメンバーがオクラホマ州ノーマンで飛行訓練を受けたことが9/11事件後判明した。2000年には、後に9/11の実行犯となるアタとマルワン・アルシェイも短期間だがこの学校を訪れている。また、ザカリアス・ムサウイは2001年にこの学校で訓練を受けた。

1999年七月、米国側のスパイであるランディ・グラスは世界貿易センターの見えるレストランで不法武器商人であるディア・モーセン、モハメド・マリク、元エジプト判事シレーン・シャウキ及びI S Iの諜報員であるラジャ・グルム・アバアスと共に食事をした。脇のテーブルには客を装ったF B I捜査官が座っていた。アバアスは米軍から盗んだ全ての荷を買取り、オサマ・ビン・ラディンに渡したいと言った。アバアスは世界貿易センターを指して「このタワーはいずれ崩れ落ちるだろう。」と言った。このI S Iの諜報員は世界貿易センター攻撃に対しさらに言及した。「アメリカ人は敵だから、アメリカ人で一杯のこのレストランを吹き飛ばすくらいなんでもない。」この会談は密かに録音され、一部は2003年にテレビ放映された。

同じ顔ぶれのメンバーが1999年8月にフロリダのウエスト・パーム・ビーチにある倉庫で落ち合い、スティンガーミサイルを検分した。(この頃米国諜報機関はラジャ・グルム・アバアスとモハメド・マリクがカシミールのテロリストであることを知った。)モハメド・マリクはこの会議でスティンガーミサイルを、カシミールかアフガニスタンで使うことを示唆した。彼の連れであるディア・モーセンはアバアスがパキスタン高官及びビン・ラディンと直接のつながりがあるとのほめかした。アバアスは「汚い爆弾」あるいはその他の核兵器を作るために重水を要求し、パキスタンの核科学者を、その物質の検査目的で連れてくると提案した。ランディ・グラスはこの情報を9/11事件以前に米国当局へ渡したが、このレポートは「消毒」された。

2002年六月にアバアスは、米国当局から密かに有罪の宣告をされたが、米国当局は真剣に彼を探した様子は無く、2002年8月にMSNBCは簡単に彼を探しだし、電話でインタビューを行なったほどである。

1999年9月には米国諜報機関が作った「テロリズムの社会学と心理学」が完成した。このレポートには「アルカエダは米国の巡航ミサイル攻撃に対する報復を計画している。それは米国の首都で様々な形で行なわれるであろう。第一にチェチェン型のビル破壊爆弾を議会ビルに仕掛ける、第二にアルカエダの殉教者軍団が高性能爆薬(C-4とセメックス)を車又は航空機につんでペンタゴン、CIA、あるいはホワイトハウスに自爆攻撃する、などが考えられる。いずれの方法にせよオサマ・ビン・ラディンは華々しい形で報復するだろう。」と記している。このレポートは迫りつつある脅威に対し、大統領や米国諜報機関に助言をおこなう立場の国家安全保障会議が作成を指示し、連邦研究部門が作成に当たっ

た議会資料である。9/11 事件の後に、ブッシュ政権は、このレポートについて 2002 年 5 月までは聞いたことが無いと公言した。ところがこのレポートは 1999 年以来インターネット上で公開され、広く政府部内で読まれていたのである。

C I A は密に I S I の選りすぐりの六〇人を訓練し、装備を与えビン・ラディンを捕縛あるいは殺す作戦をたて、一九九九年十月にはその準備が整った。パキスタンは米国が経済制裁を止め、経済援助をする約束と引き換えにこの作戦に同意したと思われる。しかし十月十二日にムシャラフ将軍がクーデターを起こしてパキスタンの政権を握ったため、この作戦は中止された。

ⁱ The Hindu, Thursday, September 27, 2001

<http://www.hinduonnet.com/thehindu/2001/09/27/stories/05272524.html>

ⁱⁱ Blast Hits Trade Center, Bomb Suspected; 5 Killed, Thousands Flee Smoke in Towers

By Robert D McFadden, February 27, 1993 The New York Times

<http://www.nytimes.com/library/world/africa/022793binladen.html>

ⁱⁱⁱ CIA Stalked Al Qaeda in Hamburg, Seeking informant, agency tried in 1999 to recruit associate of 9/11 hijackers in Germany, by John Crewdson, The Chicago Tribune, November 17, 2002

<http://www.cooperativeresearch.org/timeline/2002/chicagotribune111702.html>